

発行所 群馬県立高崎女子高等学校
同窓会
高崎市稲荷町20 電話(027)362-2585
発行責任者 齋藤 民
印刷所 ほその印刷

わたしたちの同窓生

《102周年》

会員数 29,225名
平成13年4月1日 現在



同窓会報

椎の樹



ごあいさつ

同窓会長 齋藤 民

同窓会員の皆様記念すべき二〇〇一年の年を御健勝でお迎えなさいました事とお喜び申し上げます。

母校の創立百周年というおめでたい年と、二十世紀と二十一世紀に渡って居あわせた私達はまことに幸でございました。

百周年の年もあつという間に終り、皆様からいただいた絶大なご協力の熱意の余韻にひたっております中に、最早一年経ってしまいました。平成十二年度も三月一日に新会員をお迎えしまして一層厚味と深さを持った会をひしひしと感じております。

五月一日母校の開校記念日にあわせまして同窓会総会が多数のご参加をいただき盛會裡に行われました。すでにラグビーには、自分の身を投げ出してボールに飛び込むセービングというプレーがある。これは犠牲的精神や思いやりがなかったら絶対にできない、文字通りわが身を楯にしてボールを奪う決死のプレーである。私はすべてのプレーは思いやりから始まると思えてくる。思いやりとは、自分の思いを相手にやること。ユニホームを着て試合に出られた者は、補欠で出られなかった仲間のことを、試合中ずっと思いやれなければならぬ。幸い本校では耳にしたことはないが、伝統と称して上級生が下級生にユニホームを洗

まず、道場を磨くこと

校長 大木 隆明



校でこんなことがあった。放課後、何年間も掃除をしたことがないような汚い部室で上級生が雑談をしていた。かたわらでは一年生が、必死で先輩のユニホームを洗っている。あまりかたわらで、「部活動で良い成績をあげようとしたら、まず部室をきれいにしなさい」と注意したところ、すかさず、「おい、部室をきれいにすりゃ優勝できるんだってよう。今日から毎日、部室の掃除は

無言館では大きな強いショックを受けました。平成十三年二月四日、二百五十名を越す参加者で新年会が賑やかに行われ十二年度・十三年度の当番期の引きつぎが行われました。当番期、旅行委員、会報委員の皆様ほんとうにご苦労様でした。平成十二年四月三十日から高崎の生活情報紙上毛新聞「タカタイ」に、日曜毎に女子校26回から高校13回まで23回に渡り母校の思い出が紹介され好評でした。平成十四年は同窓会の百周年に当たります。皆様のお知恵とご協力をいただいております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

伝言 来年は同窓会発足百周年です

かりするべえ」と言い放ったのにはあきれた。血の気の多いころの私だったら、胸ぐらをつかんで一喝というところだが、それをこらえるのが大変だった。諸君、信じられないかも知れないが、毎日お世話になっている、グラウンド、コート、道場、部室等を中途半端でなく徹底的に磨きなさい。自分たちを鍛えてくれる道場が、常にピカピカの状態になっていけば、やがて諸君の心も一緒に磨かれ、成績も自ずと向上してくるのである。昔から「心・技・体」と言うではないか。始めは心だ。まず、心を磨くことだ。遅刻常習、校則違反、コートには草が生えている、部室も汚い。そんな状態ではいい結果が出るはずがない。同窓生の皆様、そう思いませんか。

同窓会総会

平成十二年五月一日/母校椎樹館にて



〔新校長紹介〕



今井 優 先生

昭和17年生れ 太田市出身・在住 太田高校、東京学芸大卒業 理科(化学)の教諭として 板倉高、伊勢崎女子高、太田高、県教育委員会(県総合教育センター)、太田高校教頭、板倉高校校長 趣味はスポーツ・絵画

石碑完成除幕式

平成十二年五月十一日 旧高女跡地にて 高崎女子高等学校は、県下最初の県立高等女学校として明治32年5月1日に創設されました。

このたび、高女同窓会百周年記念行事の一環として、群馬県高等女学校発祥の地(末広町)に石碑が整備されました。場所は高崎市立図書館の北側で、大きな椎の木に守られて建てられています。5月11日、その除幕式が齋藤民同窓会会長の下に開催されました。石碑の大きさは、横12メートル、高さ90センチメートル、重さ1トンの自然石です。お立寄りの際は、是非ご覧いただき、学生時代に思いを馳せてみては如何でしょうか。

役員・常任幹事改選

平成12年5月1日(月) (於 椎樹館)
会長 齋藤 民(女26)
副会長 角田智恵子(女39)
吉村 晴子(高5)
吉野 烈子(高9)
会計監査 松原 康乃(女41)
東野 芳子(高12)
他 略

平成12年5月1日(月)に役員改選が行なわれ、上記の方々が選任されました。同窓会の益々発展を願います。

同窓会入会式

入会のごときば 風のうごき、土の香り、ふくらみかけた木々の芽、春の気配に心踊る季節となりました。只今、私たち三十五名は卒業式を終え、三年間の高校生活を終了いたしました。楽しかったこと、辛かったこと、頑張ったこと、様々な経験を胸に新たな目標に向かって進もうとしています。

二十一年紀を迎え、情報通信技術・遺伝子工学等の進歩により、世界は大きく変化していますが、私たちにあっては、本心に大切なものは何なのかよく考えながら、社会の一員として成長していきたいと願っております。振り返ってみますと、高女の大きく温かい伝統の中で高校時代を過ごすことのできた私達は幸せでした。この伝統を守ってこられた先生方や先輩の皆様から感謝いたします。そして先程、同窓会長を始め多くの方に、温かなお言葉を戴き、私たちも同窓会の一員に加えていただきました。これからは高女の同窓生として、自己を律し、後輩達を見守って行きたいと思っております。

終わりにまだまだ未熟な私達を引続きご指導くださいますようお願い申し上げます。入会のごときばといたします。平成十三年三月一日 新入会員代表 江原 明子



座談会

母校の思い出

上毛新聞社発行、高崎の生活情報紙「タカタイ」に、平成12年4月から10月まで23回高女同窓生の座談会が掲載されました。「母校の思い出を語りながら、明治32年群馬県最初の県立高等女学校として設立され、平成11年5月に創立百周年を迎えた高女の歩みを振り返る」という企画でした。女26回生から高39回生まで計41名が登場し、なごやかな雰囲気の中でそれぞれの思い出が語られました。時代時代がよくわかり、当時の感情が

思い出おこされる編集でした。

- 【女・26〜39回生】
- (1) 宿舎があった
 - (2) 遠方からの子女ら利用忘れられない蚕の感触
 - (3) モダンガールは靴をはいたえび茶の袴に憧れて
 - (4) 運動も足出すのは厳禁
 - (5) 上級生には必ず会釈を
 - (6) 震災で助け合い精神学ぶ
 - (7) 男子と歩いたらダメ
 - (8) 手作り羽子板で大会
 - (9) ゲタで榛名山よじ登る
 - (10) 憧れの先生、忘れ得ぬ授業
 - (11) 朝礼で毎日校歌を歌う
 - (12) 英語に東北アクセント
 - (13) 素晴らしい出会い
 - (14) 進路に恩師の温かい支援
 - (15) 良妻賢母が教育の目標
 - (16) 【女・40〜45回生】
 - (17) 命がけの修学旅行
 - (18) 機雷の浮かぶ海を船旅
 - (19) 消えた中庭のヒナゲシ
 - (20) 戻らなかつた先生
 - (21) 汽車から敬礼して出征
 - (22) 運動の練習は裸足で
 - (23) 運動の練習は裸足で
 - (24) 勤勞奉仕で皇居外苑清掃
 - (25) 恥ずかしかったモンペ姿

文芸欄

- 一扇となりて鶯翔つ初御空
投げ銭走らせ弁天池凍つる
細野佐和子(女41回)
- 佳話となり居る気配春降子
牡丹や淡きは淡き影にゆれ
木村比沙子(女42回)
- 初花や夫への返事うはの空
花あれば人の輪そこにありにけり
黒田清子(女43回)
- 頼り合ふほかなき夫婦新茶汲む
手渡しにもらふ夕刊日脚伸ぶ
石上ヨシエ(女43回)
- 御神火の島見遙かす春の海
風止みて閑柔かし春の月
高橋節子(女43回)
- いちにちの日のやはらぎに木瓜咲けり
ひさびさの雨にゆるびし春の土
上島千代子(高14回)

真っ白いおむすびに感激

- (10) 校庭で風船爆弾作り
- (11) 気泡抜きで手にしもやけ
- (12) 必死の作業家族にも秘密
- (13) 戦争一色の学校生活
- (14) 毒ガスの人体実験で被害
- (15) 校庭でみんな泣いた終戦日
- (16) すばらしい先生たち
- (17) 勉強、体育の両立論す
- (18) 音階は「はにほへと」
- (19) 選層で修学旅行果たす
- (20) 英語教師が農作業の監督
- (21) 厳しかった4年間に誇り
- (22) 【女・46〜高4回生】
- (23) 4年間後輩がいない
- (24) ある意味で豊かな時代
- (25) ショックだった敗戦
- (26) 学校で終戦の放送聞く
- (27) 母の着物で制服作る
- (28) M.P.が学校周辺を警戒
- (29) 表記は現代仮名遣いに
- (30) (17) クラブ活動華やかに
- (31) 国体出場の上陸、バスケ
- (32) 文化面では豊かな時代
- (33) (18) 影響を受けた思い出の先生
- (34) 温かい人間性今も心に
- (35) 良妻賢母の教育に誇り
- (36) 【高・5〜13回生】
- (37) (19) 民主主義の申し子
- (38) 創造するエネルギーと
- (39) 理想に燃える先生たち
- (40) (20) 生徒手帳にプロマイド
- (41) 週5日制から6日制に
- (42) ダンス部は国体に出場
- (43) (21) 厳しさの中にもおろかさ
- (44) 半日かけて映画鑑賞
- (45) 旅行前に行進の練習
- (46) (22) 姿勢の良さは伝統
- (47) 先生との思い出は財産
- (48) 全国書道展での優勝も
- (49) (23) 高きへのぼる心持で
- (50) 今になってわかる伝統
- (51) 学生時に世界広げて

週一回のペースで掲載されましたが、市民からの反響も大きく、各時代の様子がよくわかると好評でした。改めて高女百年の伝統の重さを感じました。

私と俳句・短歌

北爪 藏次

。なりはひに日々を励みて
気のつけば 趣味ひとつ
持たず定年迎ふ

何の趣味もなく教職を退いたが、しばらくすると、ぶらぶら散歩をしたり、水彩画を描くようになっていた。描きたいというより、暇つぶしをするために、方々へ出かけたといっただけで、いかにもしれない。ある日、体育の授業が見える畑の中で絵を描いていると、ふと句らしきものが浮かんできた。

Teacher

かなた雪の山
私はそれまで、俳句に興味がなかったが、束縛のない気ままな生活が、句心を

百周年記念事業

「桜の木が植えられました」
百周年記念誌「朝夕まどに」
が、第19回上毛新聞社出版文化賞を受賞しましたが、その副賞を母校に寄付したところ、平成12年3月中庭にソメイヨシノを植樹してくださいました。これは「高女には椎・松・檜など数々の緑があり心をなごませてくれるが、花の咲く木が少ないので淋しい」と、生徒からの希望があったためだそうです。桜の木は21世紀を迎え、新たな母校の歴史と発展を見守りながら



シドニー・オペラハウス附近にて

くすぐったのであろうか。このように、切っ掛けがあるような、ないような状態で、俳句を作るようになり、半年後には、短歌にも手を染めるようになった。家にいる時より散歩や絵を描いている時のほうが、句や歌が浮かぶ。私は、自然が好きなのかもしれない。雲ひとつなき青空の寒さかな
浅間嶺の今日よく見えて
枯野原
。柚子の実の黄ばみて夜の
。柚子の実の黄ばみて夜の
。浅間嶺の今日よく見えて
。枯野原
。柚子の実の黄ばみて夜の

北から南へ

▼同窓会報第14号を、感動の中に読ませて頂きました。会報を通して、なつかしい母校の素晴らしい歴史の数々を、カラー写真と文章でつぶさに見たり、読んだりして只々胸一杯になりました。年齢85歳女31の卒業生ですが、なつかしい母校での数々の思い出が心に溢れて来て、胸一杯です。遠い山陰の地より、母校のますますの充実と発展を祈りつつ、鎌谷清子(女31回)



「百万円寄贈しました」
母校創立百周年をお祝いして、同窓会は図書館の充実に役立てていただくべく、平成11年6月に百万円を寄贈しました。図書購入費等に使用され喜ばれております。同窓生の皆様も母校にいらした時など、図書室へお立ち寄りくださり、ご覧になってはいかがでしょうか。
関田照子(女36回)

しづかなり

今まで師の指導を受けることもなく、自己流でやってきたが、ただ励みのために、新聞への投稿を続けてきた。今までに、新聞に掲載された俳句と短歌は、合計九百五十程になるが、大台に乗ったら、深入りしたいと思っている。どこまで、平成11年12月、百周年記念誌「朝夕まどに」の上毛出版文化賞贈呈式で、斎藤同窓会長はじめ関係の方々へ会うことができ、受賞と再会を喜びあった。

校章は今でも私の宝物



- 牛込(彦坂)寿々江(女30回)
畑(牛込)和子(高11回)
高橋(牛込)久子(高13回)
三宅(牛込)寿美子(高14回)
高橋(牛込)京子(高18回)
桑原(畑)ちづる(高35回)

「和子」私の母方の祖母は明治16年生れで、当時高崎には女子校がなく、東京府立第一高女に入学、その翌年高女が創立されたそうです。幼い時からその話を聞いて居り、祖母が一年遅く生まれていれば、四世代高女卒だったかも知れません。母、私と妹三人、娘の三代です。父母は長命で近くに住んで居り、孫12人ひ孫13人と賑やかです。



母は牛込寿々江は袴とスカートに自分で三蓋松雲つなぎ柄を刺繍し、運動用ブルマーには沢山の髪を入れて仕立てたそうです。
佐藤だけ先生は親子二代の恩師です。生家の二軒隣りにお住いでしたから、特に印象深く、「背筋を伸ばして、10m先を見て、高女生である誇りを持って歩きなさい」の

御指導も十分弁えて、中央銀座通りを通学したものです。また、偶然にも夫と私共々小島巴先生、三俣治夫両先生の授業を受けていた事も不思議な気が致します。
娘は桑原ちづるは末広町校舎より、新校舎へ各々の椅子を運んだ学年です。卒業後早や19年。現在埼玉在住で、看護婦をしながら子育て奮闘中です。
私も還暦を迎えましたが、我が家系の代表として、微力乍ら母校に恩返しをとの思いで、学年幹事をさせて頂いたにしております。
【京子】高橋久子と三宅寿美子は二年間共に通学し、心強かった。四女の私は姉三人のおさがりの制服とカバンで我満の時代でした。
関西旅行の土産は八ッ橋と平安殿が代々決まりでしたし京都で二晩、歌声喫茶「炎」へ通った楽しい思い出は今でも胸が高なる感じがします。
夫の転勤も終り、長姉や母の近くに住み、上毛三山を眺め、藤棚、椎樹の話、時には校歌を口遊みながら、一時間余りのウォーキングを姉妹で楽しむ、静かな幸福のひとつが日課です。

窪谷道子(女42回)
▼私は少しの間の在校生でしたが、思い出は一杯です。会員のお仲間入りを幸せに思っております。此の度百周年記念の催しの会報有難うございました。お写真からでもパワーを感じ、まるで参加している様に、ドキドキ力が入って居る自分に気がしました。
小杉自子(附1)

旅行 睦親 窓会だより

旅の濃信 心あたたまる



小堤ちえみ(高25回)

今年の旅行は「きつと何かに出会える秋の信濃路」をテーマに十月二十二日、一泊二日での信濃路に42名で出発しました。東山魁夷美術館の見学から善光寺宿坊、兄弟坊にて昼食の精進料理を頂き、善光寺を参拝し、別所温泉にある無言館へと向いました。無言館は、画家になることを一心に夢み、志半ばにして戦争で尊い命を落とした画家生や若い画家の方達の残した作品が展示してありました。入館前に館の中では会話を慎むようにとの注意があり、コンクリート造りの美術館の中は、ひっそりと静かに貴重な遺作、遺品が展示されています。絵画ひとつひとつに画学生の思いが込められており同時に人生を閉ざされた無念さが伝わってきます。また、ご遺族に宛てられた手紙もあり、涙が込み上げてきます。息子を持つ身におきかえ、今の時代の平和と豊かさに感謝の気持ちで一杯になりました。今日の行程を終了し、上諏訪温泉のホテルに向かいます。

京浜同窓会

梅雨の晴れ間となった七月二日、第49回京浜同窓会が、ホテルグランドパレスにて催されました。

林支部長のご挨拶に続き、齋藤会長、大木校長先生よりご祝辞を賜り、吉村副会長の乾杯の首領と共に、華やいだ楽しいひとときが始まりました。百三十名程の同窓生の集う会場は、年代を越えて心地良い一体感に包まれました。

恩師の齋藤薫先生、松本君代先生のスピーチには、お変わりのないご様子とお話ぶりに驚嘆の声すら上がり、思わ

ず、当時の授業風景まで思い出されました。また、今回残念ながら都合で欠席された熊倉先生に代わって、お嫁さんの高25回生、熊倉幸子さんから先生のご近況報告をいただき、そのお話の楽しさに、先生のご欠席の淋しさを見事に補っていただきました。

そして宴もたけなわ、高25回生吉和子さんによる歌のミニコンサートが始まると、場内には静かな、そして大きな感動が広がり、アンコールを求める拍手が沸き起こりました。

宴の最後は恒例の齋藤会長の指揮による校歌斉唱。美しい歌声に皆の思いがこめられ



夕食後の宴会では、ビンゴゲームの賞品の説明が自ら紹介があり、同窓生のお人柄にふれる事ができました。23日は、朝から雨となってしまいました。雨にぬれた紅葉も綺麗と前向きにホテルよりバスで5分程の北澤美術館で幻想的なエミール・ガレの世界にひたり、諏訪大社下社秋宮を参拝し、別所温泉へ向いました。昼食後、若くして亡くなった薄幸の画家たちのデッサンが展示してある信濃デッサン館を見学し、前山寺では、手作りのくるみおはぎを満腹のお腹にはおぼり、帰路につきました。上信越道、妙義山あたりでは霧が立ち込め、山水画の中に漂っているようでした。

同窓生の方々と語り、美しい自然とすばらしい芸術作品との出会い、心あたたまる信濃路散策でした。ご尽力いただきました同窓生の方々、幹事の方々に深く感謝申し上げます。

期別同窓会

●高女45回古稀記念旅行 牛込やす子

今回は、古稀記念旅行と銘打って「尾道しまなみ海道・四万十川」2泊3日の旅を企画しました。参加者は、37人。台風一過の十月十一日高崎駅を出発、東海道新幹線で福山まで、貸切バスを乗りついで尾道に到着。早速、千光寺公園、文学のこみちの散策をし、皆ちよっとした歌人や俳人になった気分を味わいました。

それから、いよいよ瀬戸内しまなみ海道に入りました。これは尾道と今治を結ぶ約60キロ、瀬戸内の6つの島を双子橋、斜張橋、アーチ橋、等々10の橋で結んだ海道です。海原に映えながらの移り変わる造形美に、山国育ちの私達は、

ロスアンゼルス便り

同窓会員の皆様御健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。当地には5万人の日系人が住んで居りますが、戦前移民した人の子孫(二―三世)、ロスアンゼルスに参りまして38年の歳月が過ぎ去りましたが、青春時代の6年間を学び過ごした母校への郷愁はひとしおでございます。アメリカ在住と申しましても太平洋を一飛び気軽に往復出来る昨今ゆえ余りめづらしい事柄もございませんが、同窓生の一入として近況をお知らせ致します。

渡米してすぐの10年間は日系子弟の通う日本語学園に教師として奉職。その後、高崎市内の実家(海産問屋)の応援を得て日本食品等の貿易を始めましたが、お寿司が健康に良くダイエット食と言う事でアメリカでブームになったので、要望にこたえて市内及び近郷にて日本食レストランの経営を始めました。従業員は、日系人を始め中国系、韓

感嘆の声しきりでした。その夜は、日本名湯百選の一つ道後温泉郷ふなや旅館に泊り、殿様気分の食事をたのしみ、露天風呂からの名月を眺めて悦に入り、小説の一節を思い浮かべながら、名物「坊ちゃん団子」を頬張り、一夜を過ごしました。翌日の宇和島では、真珠の生産高日本屈指といわれている加工所を見学しました。そして竜串グラスポートで、海底のサンゴや美しい魚群をたのしみ、お土産のサンゴの数々にも手が伸びはじめました。真珠の魅力冷めやらぬ間に次の足摺岬では、80メートルの断崖に佇みました。夜は足摺パシフィックホテルです。ずらりと並んだご馳走を前に宴の賑やかなこと、

●高4回・第11回同窓会は、二〇〇〇年九月二日メトロポリタンにて開催。後日、長谷川先生より「往時、芒々夢の如し」とお便りを頂きました。



小淵総理ご夫妻と(右より2人目)

小寺知事をお迎えていただきましたが、その折功労者として名誉ある賞状を頂く機会に恵まれました。夢々思ってもおりましたので大変感謝しました。

総ての方々の御指導御協力の賜物と、これを機会により一層県人会、また母県のため、参りたいと存じます。現在私が当地でお引き受けしている役職は、①南加群馬県人会顧問②県人会協議会(40県人会の会長経験者の会)理事と会計監査③小東京開発委員④日本村テナント組合(41店舗)の会長⑤南加日系レストラン協合理事⑥東亜トレイディング副社長です。時間が欲しいと痛感している毎日でございます。

永く日本を離れて居りましたのでどのような事をお知らせしたら良いか想像つかず、まとまりのない文章で恐縮しております。

二〇〇〇年八月県人会創立75周年記念式典に、母県より

原田、富沢、次期幹事は岩崎、木暮、尾山、樋口さんです。

●二回目の同窓会 池田清美(高25回)

平成十二年六月二十五日、高崎サンパレスで、私達25期生の2回目の同窓会が行われました。初回は卒業後15年めに開きましたので、まだ子育ての真最中という方もたくさんおられました。にもかかわらず、遠路はるばる出席された方も多く、次回を楽しみにしているという声もかなりありました。そこで、子育ても少しお休んで来たところですし、同窓会の当番学年も近いこともあって、その準備も兼ねて今回の開催になりました。受け付けからももう既に懐しさの歓声があがり、話

●高26期・第2回同窓会 広瀬節子

二〇〇〇年八月十五日、ビューホテルで開催しました。先住5名、同窓生78名。遠く九州から参加した方もいました。一次会を3時間の昼食会。名残り尽きず、会場を隣の部屋へ移しお茶とケーキで2時間、いくら話しても話尽きませんでした。

同窓会 総会開催の お知らせ



平成13年度行事予定

5/1(火)	総会
9/1(出)	旅行申込日
11/18(日)	親睦研修旅行
2/3(日)	新年会 高崎ビューホテル
3/1(金)	同窓会入会式
4/1(月)	会報16号発行

うらかな春の陽の中、心地よい風を迎える季節となりました。同窓の皆様にはお元気で過ごしのことと存じます。さて、恒例の総会を下記により開催いたします。お誘い合わせて、多数ご参加くださいますようお願い致します。

記

日時 5月1日(火)14時～
場所 母校 椎樹館・和室
講演 「東京文学散歩」
講師 中島松男先生

母校の近況

昨年、高校総体で総合優勝し二連覇を成し遂げ、文化活動面でも益々意気高くしています。進学面も目的に向かってしっかりと取り組み目ざましい成果をあげています。同窓生の皆様の応援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

卒業生 315名。
進路先状況：進学者 264名
国立大 93名、公立大 15名、私立大 140名、短大 9名、各種 7名。
就職 3名、浪人 46名、その他 2名。

教職員人事異動

退職された先生

校長 大木 隆明 先生
教諭 箕輪 則子 先生
公仕 吉田 実 さん
◇ 転出された先生(敬称略)
英語 今井 俊治 先生
(安中定時制教頭)
理科 松村 君雄 (中央)
◇ 転入された先生(敬称略)
校長 今井 優 (板倉)
数学 廣神 孝彦 (富東)
理科 高橋 滋 (中央)
英語 大槻 恭子 (前商)
公仕 萩原 勝利 (前商)

- ※会議 (1) 常任幹事会
(2) 期別幹事役員会
(3) 旅行企画委員会
(4) 会報編集委員会
(5) 合唱団運営委員会
(6) その他

※同窓会100周年は平成14年(2002)です。

※同窓会維持費は同封の振込用紙にて納入をお願い申し上げます。その際卒業回期の明記をお願い申し上げます。

※第50回京浜同窓会のお知らせ
平成13年7月1日(日)
広東名菜 赤坂 瑞宮
代表幹事 高26回 二川 陽子
☎ 045-911-5054

※三宅島の同窓生へお見舞

三宅島住民で、現在東京で避難生活をされておられる高15回関口(大塚)芳枝さん、高14回浅沼(大塚)澄枝さんお二人に、高校5回が中心となり新年会で募金を呼びかけたところ、多くの方のご協力を頂き、170,085円集まりました。早速、会長さんのお手紙を添えて送りました。

十一月三日、文化の日にふさわしく、私達高女同窓会合唱団は市民音楽祭の集いに参加いたしました。練習日には全員が顔を合わせることで、きかない私達も、この日ばかりは全員が揃い、ひとときわ清楚な出で立ちで、元高女生らしい落ち着きとちょっぴりの不安を抱えながら舞台上に立ちまわりました。松本康江先生のピアノが舞い、小林弥生先生のピアノ

で、指揮松本康江さん(高14)ピアノ伴奏小林弥生さん(高32)による同窓会合唱団が美しいハーモニーで、「風の子守歌」他二曲を披露してくださいました。事務局からのお知らせの後、



平成五年同窓会の写真愛好会として発足し、今年八年目を迎えることとなりました。第一回の写真展から同窓会の皆様には、その都度多くの方々にお越し頂き、心暖まるお励ましや、ご意見を頂戴し本当に有難うございました。改めてお礼申し上げます。構図の決め方、交換レンズの使



◎写真「虹」
写真展ご案内
望月清世(高2回)

同好会活動

写真は平成12年10月6日
第4回作品展

い方、そして一番大切なキラリと光る一瞬を捕える感性を磨く為に、折に触れ自然界の美しさや、人々の喜怒哀楽に感動する心を養う努力をして参りました。今年も十月十九日(金)から十月二十四日(木)まで、高崎シテイギャラリー第六展示室にて第五回写真展を開催いたします。これから数ヶ月、納得出来る作品を展示出来そうです。願いつつ会員一同頑張っています。どうぞお越し頂きご指導下さいませ。写真は平成12年10月6日
第4回作品展



旅行 平成13年度 親睦旅行の お知らせ

古典への誘いと新しい東京の街

「恵比寿ガーデン プレイス」散策

期日：平成13年11月18日(日)

費用：20,000円

行程：高崎駅東口(7:30)＝関越道＝東京都内美術館＝ホテルにて昼食
≪ゲストによるショー 和歌山 富之助(長唄)・相撲呼び出し 三郎≫＝恵比寿ガーデンプレイス<自由散策>＝関越道＝高崎駅東口(19:30)

定員：50名(バス1台)

申込：9月1日10時～15時 母校椎樹館
学校 ☎ 027-362-2585

問い合わせ：

(旅行委員)

高25 潮 久美子 027-385-5484

高25 湊 広子 027-234-3516

名簿委員会報告

堀口まち子(高19回)

ノがそよ風を運び込むと、いよいよ第一声です。「今日は声がのびている。」そう感じると、私自身も何時になく冷静に響きを確かめながら歌っているではありませんか。池辺晋一郎作曲「六つの子守歌」より、風の子守歌・空と海の守歌・思い出の子守歌の三曲を無事歌い終えると、何とも晴れ晴れしい気持ちの良さに浸ることができました。同窓会々長でいらっしやる齋藤民先生もたいへん喜んで下さいました。来たる同窓会新年会には、ご参加の皆様にとさらにお聴かせできることでしょう。

第一回名簿委員会が七月二十六日に開かれ、同窓会百周年の事業の一環としてこれまでの名簿の形式を改め各期末の欄から元の位置へ戻す方向で検討することになりました。詳細については業者と相談し他校の名簿などを参考に進めていくこと、また、女学校20回までの卒業生については、事務局より往復はがきにて近況を伺うことなどが決まり、次回会議までに早急に対応することになりました。

第15号編集委員会

同窓会長 齋藤民(女26) 副会長 角田智恵子(女39) 吉村晴子(高5) 吉野烈子(高9) 編集委員長 編集委員 笹本幸子(女44) 吉村節子(女46) 金井幸子(高3) 岡田俊子(高4) 善如寺尚子(高17) 設楽多恵子(高18) 武井治子・綱島千栄子(高19) 齊藤信子(高20) 丸山ちひろ(高21) 田中和子(高22) 福田和子(高23) 高澤晶子・宮尾志津子(高24) 林いずみ・井上ちはる(高25) 瀧川澄子(高26) 事務局 桑原芳美(高16) 堀口まち子(高19)

第三回会議は十一月二十一日に開かれ高校卒の物故者の方々を卒業時のクラスに戻す作業が名簿委員によって始まりました。次回会議については、作業の進行状況を業者と相談の上、設定していく予定です。

◆新しい世紀を迎えました。世界はどのように変わっていくのかしら……、傍観は許されたいに思われます。個として又社会の一員として、いかにあるべきかと考えながらも、やはり、世界の平和と子供達の幸せを祈らずにはいられません。



◆教育も今また、大きく改革されつつあります。

◆来年は同窓会が発足して百周年になります。皆様のご協力をいただき、よりよい交流を通して、生きる力を分かちあえたら幸いです。